



ふじのくにライフスタイルで生きる

FUJINOKUNI Life Style

誰もが夢を実現できる静岡県



young熱海メンバーとスタッフによる設営風景。



美術作家さとうなつみのインスタレーション制作の様子。作品モデルは舞踏家カナキティ。



穏やかな口調で取材に応じる2人。心にはアートへの熱い思いを秘める。

## 最終目標は アートイベントの先に続く コミュニティづくり

アーツカウンシルしずおかプログラム・コーディネーター

### 立石 沙織さん(右)

磐田市出身、横浜市在住。静岡文化芸術大学でアートマネジメントを学ぶ。2014年より横浜市のNPO法人黄金町エリアマネジメントセンターでアートによる街づくりに携わる。2017年から静岡県文化プログラムのアシスタント・コーディネーターを兼務。2021年4月より現職。

young熱海代表 Atelier&Hostel「ナギサウラ」マネージャー

### 渡邊 杏樹さん(左)

熱海市出身。東京や横浜で保育の仕事に従事。帰郷後はアートに携わる仕事に就きたいと、プロジェクト立案のノウハウを学ぶスクール「Meets by Arts」に参加。Atelier&Hostel「ナギサウラ」でマネージャーを務める傍ら、地域の企画運営団体「young熱海」を昨年5月に発足。

「アートに関心のない人とアーティストをいかにつなげるかに興味があります」と語る立石沙織さんは今年度、アーツカウンシルしずおかのプログラム・コーディネーターとして「young熱海」が手掛けるプロジェクトを支援している。

young熱海の代表・渡邊杏樹さんは、衰退していく故郷に劣等感を抱いていたという。しかし東京から戻り、移住者の力で再生していく郷里を見て、自分もアートで新たなコミュニティを作ろうと決意。「熱海をyoungアーティストの溜まり場に」を合言葉にyoung熱海を発足し、「物の循環」を主題とするアートイベントを開催した。

全てが初めての経験で苦難も多い中、渡邊さんは「立石さんの包容力、いつもかけてくれる『大丈夫だよ』の言葉が原動力になりました」と振り返る。

一方、立石さんは「当事者は課題意識の高さから自分を追い詰めてちになります。でも、芯が一本通っている渡邊さんなら『できる』とわかっていたので、最後まで支えたいと思っていました」と語る。

イベントは予想以上の反響を得た。しかし、2人の最終目標は、その先に続く地域づくりだ。「今回はアートからできるつながりを実感できました。今後は同様に頑張っている人たちとさらにつながって、大きな波にしていきたい」と渡邊さん。それを見守る立石さんは「彼女のような人を県内各地で増やしていくことが私の仕事。アートを通して行動を起こしたい人の背中を押せる存在でありたい」と優しく微笑む。2人の活動は、これからも地域に素敵な化学反応を起こしていくだろう。